

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>東京書籍 (NEW HORIZON English Course)</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4技能5領域の言語活動が偏りなく配置され、各 Unit では単元の見通しをもち、新たな知識及び技能を活用しながら段階的に習得できるよう構成されている。</li> <li>・ 生徒が自分で思考し、判断したことを適切に表現できるよう、目的や場面、状況などに応じた言語活動が設定されている。</li> <li>・ 主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、多様な文化や価値観に目を向けることができる題材が扱われている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘索性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小学校での学びを生かしながら中学校での学習に移行できるよう、小学校での学びを整理する単元が設定されている。</li> <li>(2) 各 Unit では、聞いたり、読んだりして理解した英語を利活用しながらアウトプットする活動へとスモールステップを積み上げていけるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 学校生活などの身近な話題から海外旅行や世界遺産、日本文化や動物愛護、国際協力など、生徒の発達段階に応じて扱う題材の内容が広がるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 複数の技能や領域の力を統合的に活用し、相手意識をもって言語活動を行う「Stage Activity」が各学年に3回ずつ配置されている。</li> <li>(5) 小学校で扱った単語や活動には印が付いていたり、色や形を用いて文法を視覚的に識別できたりするよう工夫がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各 Unit において、英語を聞いたり、読んだり、話したりした後に自分の考えを書くように構成されている。</li> <li>(2) 2、3年生では「単元を貫く問い」が Unit のタイトルになっており、「Unit Goal」と「Unit Activity」に向け、英語を話したり、書いたりする「Activity」が段階的に配列されている。</li> <li>(3) 「Stage Activity」では、具体的なゴールと目的や場面、状況などがともに示されており、情報を整理して、既習事項を用いながら自分の考えを表現できるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 「Real Life English」では、身の周りの日常的な場面における各技能領域に特化した言語活動が設定されている。</li> <li>(5) Key Sentences を使う目的や場面、状況などをイメージしながら表現の定着を図ることができるイラストが挿入されている。</li> <li>(6) 各 Unit の扉にある単元目標の達成状況が確認できるよう、単元末活動には振り返りがあり、巻末にはCAN-DO リストが設けられている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて既習事項を活用しながら自分の考えや気持ちを適切に表現する力を身に付けるために、言語材料を段階的に学習していく工夫がなされている。</li> <li>・ 単元のとびらにゴールが設定され、巻末のCAN-DO リストを活用し、自分の学習を振り返ることができるよう配慮がなされている。</li> </ul>

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">開隆堂 (Sunshine English Course)</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>• とびらに単元の目標が示されており、導入部分で新出表現を取り上げているため、基礎・基本が身に付きやすく、実際に新出表現を使いやすいよう構成されている。</li> <li>• 新出表現導入の場面では、日常会話が設定されており、それを用いてすぐに会話練習ができるよう工夫がなされている。</li> <li>• 外国の文化や日本の文化、学校行事についても触れられており、興味をもってコミュニケーションが図れるよう工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘索性  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;">             本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等           </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「Get Ready」では小学校で学習した内容を「聞く」「話す」「読む」「書く」ことの順番で復習できるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 1年次では、主に日常的な話題や外国の文化や自然についての話題に多く触れており、2・3年次では、社会的な話題やSDGsについての話題に多く触れられている。</li> <li>(3) SDGsと結びつけられた題材が多く、目次や単元のはじめには、SDGsのどの項目があてはまるのか示されており、社会的な話題を外国語を通して学べるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 各学年に配置されている「Our Project」では、単元で学習した新出表現を使って自分の考えを伝える活動が設定されている。</li> <li>(5) 単元のはじめのページでは、写真が大きく示され、これから学習する単元の内容がイメージできるよう工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;">             「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価           </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 単元ははじめのとびらで目標を確認し、新出表現を導入してから本文の内容を理解し、最後に自己表現できるよう構成されている。</li> <li>(2) 「Scenes」の「Listen」で、必要な情報を聞き取り、「Speak &amp; Write」で、ペアでの対話の後に自分のことを書く流れになっており、新出表現を身に付けやすいよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「Our Project」では、スピーチに向けて、モデル文を読んだり、伝えたい内容を書き出したりすることによって手立てが分かりやすく、自己表現力等を育成しやすい工夫がなされている。</li> <li>(4) 「Scenes」の2コマ漫画では、日常会話の場面が設定されており、新出表現を使用する場面が分かりやすい工夫がなされている。</li> <li>(5) ところどころに現れる動物のキャラクターがポイントを説明しており、学習者がポイントに注目しやすいよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 巻末のCAN-DOリストで、単元ごと何ができるようになったのかをチェックして、達成度を把握できる工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新出表現導入の場面の「Scenes」は、2コマ漫画で表されており、表現を実際に使う場面が分かりやすく、これから学ぶ新出表現に興味をもたせる工夫がなされている。</li> <li>• 「Review&amp;Retell」では、吹き出しを用いたさし絵を活用し、即興でやりとりができるよう工夫がなされている。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>三省堂 (NEW CROWN English Series)</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各単元が学びの見通しを立てた上で、新しい文法事項を学び、活用する構成になっていることで、4技能5領域の基礎を養えるよう構成されている。</li> <li>• 各単元末に、目的や場面、状況などを明確にした言語活動が設定され、思考力、判断力、表現力等が培われるよう工夫されている。</li> <li>• 日本や他国の文化的な背景を考慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養われるよう配慮されている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘索性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1学年 Lesson 4 までは、小学校の学習を復習する「Starter」が設定され、絵辞書を掲載し語句等が確認できる工夫がなされている。</li> <li>(2) 単元や本文の導入時に、題材や本文の内容に関わって Small Talk を行うことから始まり、読んだことを基に考えて話す活動を繰り返しながら、単元末の活動へ生かせるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 生徒の興味・関心や発達段階に応じて、異文化理解、災害対策、環境問題、平和、日本の伝統文化など、身の回りのことから社会的な課題へと題材が多岐にわたって扱われている。</li> <li>(4) 複数単元後の「Project」では、ペアやグループで協力しながら、自分の考えや気持ちを伝える表現活動が設定されている。</li> <li>(5) 「Small Talk Plus」では会話を続けるために大切な視点が示され、単元末の活動に関わるやり取りができるよう配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 即興的に話す→理解する→表現する流れの学習形態で統一され、4技能5領域が偏りなく指導できるよう構成されている。</li> <li>(2) 単元末活動「Goal Activity」に向けて、新出文法の定着を図る活動「Exercise」や、読んだことを元に考えを伝え合う活動「Think about Yourself」が段階的に配列されている。</li> <li>(3) 「Project」では、言語活動の目的や場面などが示され、表を使って自分の考えや情報を整理し、聞き手を意識したり、構成を考えたりしながら表現する活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 「Take Action」ではチラシやウェブサイト等、日常生活の場面で必要な情報を得たり概要をまとめたりする活動が設定されている。</li> <li>(5) 写真やイラスト、コミック形式を用い、語句の意味や表現が使用される場面を理解する補助となるよう配慮がなされている。</li> <li>(6) 巻末の CAN-DO リストには、各単元の言語活動との関連が示され、学習到達目標の達成状況が確認できるよう工夫がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 単元末活動「Goal Activity」に向けて、単元を通してやり取りしたり、読んだりしながら、「話すこと」「書くこと」の着想を得られるよう構成されている。</li> <li>• 写真やイラストが多く用いられ、語句や英文の内容がより具体的にイメージできるよう配慮がなされている。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>教育出版 (ONE WORLD English Course)</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各 Part が読んだり聞いたりして理解したことを基に表現する構成になっており、習得した知識を基にコミュニケーションで活用する技術を身に付けることができるよう配慮がなされている</li> <li>・ 各単元末の「Task」では目的や場面、状況などが明確に設定され、思考力、表現力、判断力等を育成できる工夫がなされている。</li> <li>・ 各 Part や単元末に自分の考えや気持ちを表現する活動があり、主体的に学習に取り組む態度が育成されるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1学年の「Lesson 2」までは中学校の準備ができる内容で構成されていて、英文も会話形式で書かれている。</li> <li>(2) 各 Part 「Think &amp; Try」「Read &amp; Try」、単元末「Task」、年3回の「Project」では、自分の考えや気持ちを表現する活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 生徒の興味・関心や発達段階に応じて、日本文化、異文化、自然、社会、キャリアなど生徒が身近に感じられる題材の配置に工夫がされている。</li> <li>(4) 年3回の「Project」では、聞くことから始まり4技能5領域を統合的に活用した活動が位置付けられている。</li> <li>(5) 左ページに英文、右ページに文法や各 Part のまとめの課題が配置されており、学習者が見やすいよう配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各 Part で英語を読む・話す・聞く活動を行い、単元末の言語活動に向け考えを話したり書いたりできるよう構成されている。</li> <li>(2) 各 Part の終末に用意された言語活動に向け、必要な言語材料について理解する項目や、話したり聞いたりして定着を図る活動が段階的に配列されている。</li> <li>(3) 「Project」では、既習の知識や表現を生かし、4技能5領域の知識及び技能を統合的に活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を働かせながら課題解決に取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 「Useful Expression」では、校舎案内や飲食店、電車の乗り換え案内など日常生活の中で英語を使用する場面が設けられている。</li> <li>(5) 生徒の内容理解も助けるような挿絵や写真が使われている。また、読みやすいよう少ない配色でまとめられている。</li> <li>(6) 単元のとびらページに当該 Lesson での目指すべき姿が書かれ、裏表紙の CAN-DO リストとも関連付けられている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各 Part や各単元だけでなく、年に3回設定されている技能統合型「Project」を通して、4技能5領域を総合的に育成できるよう構成されている。</li> <li>・ 1つの領域に焦点を当てた課題や日常的な場面を想定した活動を通して、生きた英語の習得を目指せるよう構成されている。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>光村図書 (Here We Go! ENGLISH COURSE)</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各 Part では、左側のストーリーで扱う基本文が右側の活動で繰り返し練習できるよう、4技能5領域を身に付けることができるよう工夫がなされている。</li> <li>• 目的や場面、状況などを明確にした言語活動が設定され、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫がなされている。</li> <li>• 自国と他国の文化的な背景を考慮しながら、主体的にコミュニケーションを図れるよう工夫がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘索性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1学年では小学校での学びを生かせる単元が設定されており、段階的に中学校の学習に取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 対話や本文を通して、学習する表現に気付くことから始まり、インプットからアウトプットへとスモールステップの活動に取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 興味や発達段階などに応じて異文化理解、災害対策、環境問題、平和、日本の伝統文化など、身の回りのことから社会的な課題へと自分事として捉えられるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 単元末には、ペアやグループで協力しながら既習事項を用いて考えや気持ちを伝える活動が配置されている。</li> <li>(5) 写真やイラストを多く用いて表現の使用場面をイメージできるよう工夫がなされ、また色覚の多様性に配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各単元「聞く」「読む」「話す」「書く」の順序で統一され、4技能5領域が偏りなく指導できるよう構成されている。</li> <li>(2) 各単元終末に向けて、言語使用場面について理解する「聞く、読む」項目と、新出表現の定着を図る「話す、書く」項目が段階的に配列され、学びの見通しがもてるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) まとめの活動では、単元で学んだことを生かした活動場面が示されており、生徒の振り返りが3観点の評価の参考となるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 実社会の言語使用場面が意識された教材では、場面特有の表現が明示され、理解と活用が指導できるよう構成されている。</li> <li>(5) 英文を読むページには内容に関わるイラストが、聞き取り活動では場面をはっきり見分けられる写真が多く用いられている。</li> <li>(6) 単元のとびらには、内容を想像しやすい写真やイラストが配置され、単元終末にはCAN-DO リストの振り返りが設定されている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中学生の気持ちや伝えそうなこと、起こりそうな出来事を中心にストーリーが構成されており、言語使用の目的や場面、状況などを自分事としてイメージできるよう工夫がなされている。</li> <li>• 既習の表現や語彙に繰り返し出合えるよう言語活動や帯教材の配列に工夫がなされている。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>啓林館 (BLUE SKY English Course)</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元で4技能5領域が段階を踏んで位置付けられ、学んだ知識及び技能を活用する言語活動が設定されている。単元末には複数領域を統合した活動に取り組める配慮がなされている。</li> <li>・ 目的や場面、状況等に応じた言語活動が設けられ、日常的・社会的な話題で自らの考えを適切に表現できるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 日本文化や異文化理解、環境や平和、防災といった多彩な話題が提示されており、深い学びの実現を目指すための工夫がなされている。</li> </ul>
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘索性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1年生ではUnit5までを「小中接続期」と考え、慣れ親しんだ表現を用いて学びが深まるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 各単元の「Part」学習後に「Listen」「Speak」「Write」が配置され、自分の考えを表現する「Express Yourself」へ向かうよう、段階的に言語活動が積み重なる配慮がなされている。</li> <li>(3) 生徒の興味・関心や発達段階に応じて、文化祭などの身近な話題やSDGsに関連する話題が多く扱われている。海外や日本の物語や伝記を英語で味わうことができるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 各学年「Project」の単元では、4技能5領域を統合的に活用し、自分の考えや思いを表現できる内容に設定されている。</li> <li>(5) 理解を助ける写真や絵が掲載されており、配色の工夫といった「カラーユニバーサルデザイン」への配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各単元の「Part」に「Listen」「Speak」「Write」が配置されることで、4技能5領域を偏りなく扱えるよう構成されている。</li> <li>(2) 各単元の終末「Think &amp; Speak/Write」で自分の考えを表現する「聞く」「書く」「読む」「話す」活動が段階的に配列されており、単元内で新出表現に繰り返し触れる機会が設定されている。</li> <li>(3) 「Project」では目的や場面、状況などが明示されており、表やマッピングなどのシンキングツールを用いて、自分の考えや情報を整理して表現できるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 「Let's Talk」では日常生活で身近な表現が扱われ、段階的に言語活動に取り組めるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 対話場면을想像しやすい写真や地図、絵が適切に配置されており、言語活動につなげやすい例文が明記されている。</li> <li>(6) 単元の始めに「Unit Goal」が位置付けられている。CAN-DOリストが掲載されており自己評価ができるよう配慮がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元の「Part」に複数領域を統合した言語活動が設定されており、3学年を通して4技能5領域をバランス良く育成できる工夫がなされている。</li> <li>・ 各学年「聞く活動」に特化した「Let's Listen」が設定されており、英文を段階的に聞き取る工夫がなされている。</li> </ul>